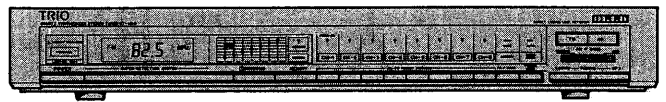


クォーツ シンセサイザー
ステレオ チューナー

KT-1010

取扱説明書



TRIO

ご購入いただき、ありがとうございます。

ご使用に際し、本機の性能を十分に発揮させるため、本説明書を最後までお読みいただき、正しい使いかたにより末永くご愛用ください。

なお、本製品は厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、万一運搬中の事故などに伴い破損等の不具合がありましたら、お早めに購入店、または最寄りのトリオ各営業所、サービス・センターへお申しつけください。

アフターサービスについて

1. 保証書—この商品の保証書は別途添付してあります。必ず所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保存してください。
 2. 保証期間—お買上げの日より1年間です。正常なご使用状態でこの期間内に万一故障を生じた場合には、保証書の記載内容によりお買上げの販売店またはトリオの営業所が無料修理いたします。
 3. 保証期間経過後の修理についてはお買上げの販売店またはトリオの営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合にはお客様のご要望により有料修理いたします。
 4. 本機の補修用性能部品の最低保有期間は製造打切り後8年間です。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。
 5. なおアフターサービスについて、ご不明な点はお買上げの販売店またはトリオの営業所にご遠慮なくご相談ください。
- ※ ダンボール箱は、アフターサービスや引越しの際大切な機器を保護するために、是非保管しご利用ください。

付属品について

本機には、下記の部品が付属されていますのでご確認ください。

T型FMアンテナ	1本
両ピンコード	1本
75Ω/300Ωアンテナアダプター	1個
AMループアンテナ	1個
ループアンテナホルダー	1個

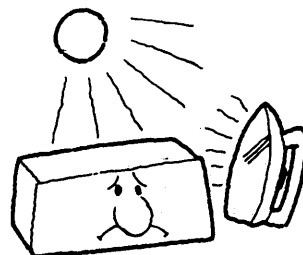
目次

ご使用の前に	2
定格	3
接続のしかた	4
外部アンテナについて	5
各部の名称と動作説明	6
操作のしかた	7
故障と思われる症状ですが	8

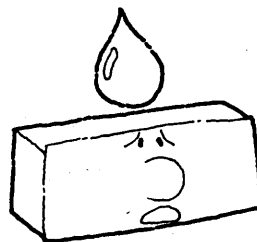
ご使用の前に

設置上のご注意

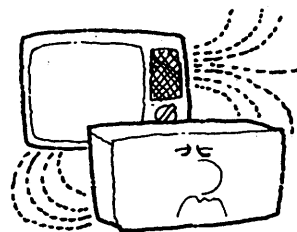
直射日光の当る所、暖房器具など発熱物の近くはさけてください。



花びん、化粧品など水の入ったものは、セットの上に置かないでください。また、湿気の多い所はさけてください。

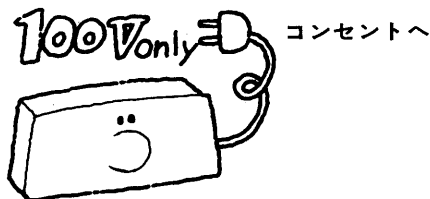


雑音をできるだけ少なくするために、テレビの近くや磁力の発生するものからは遠ざけてください。

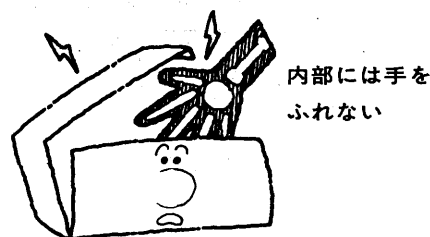


安全にお使いいただくために

本機は、交流100V専用です。クーラーなど三相200Vでは使えません。



ケースなどをはずし、内部にふれることはさけてください。内部に手を入れると感電、故障の原因となりますことがあります。



定 格

これらの定格およびデザインは、開発に伴い、予告なく変更になることがあります。

〔FMチューナー部〕

受信周波数範囲76MHz~90MHz
 アンテナインピーダンス75Ω不平衡
 感度 (IHF) 75Ω0.95μV/10.8dBf
 SN比50dB感度 MONO.....1.8μV, 16.2dBf
 STEREO.....24μV, 38.8dBf

高調波ひずみ率 (100%変調)

MONO 100Hz.....0.009% (WIDE), 0.1% (NARROW)
 1kHz ...0.006% (WIDE), 0.12% (NARROW)
 50Hz~10kHz.....0.02% (WIDE), 0.15% (NARROW)
 STEREO 100Hz0.04% (WIDE), 0.4% (NARROW)
 1kHz ...0.0095% (WIDE), 0.3% (NARROW)
 50Hz~10kHz.....0.1% (WIDE), 0.6% (NARROW)

SN比 (100%変調) MONO (85dBf入力)98dB
 STEREO (85dBf入力)88dB

キャプチャーレシオ.....1.0dB (WIDE), 2.5dB (NARROW)
 実効選択度 (IHF: ±400kHz)45dB (WIDE), 90dB (NARROW)
 ステレオセパレーション

1kHz68dB (WIDE), 50dB (NARROW)
 50Hz~10kHz50dB (WIDE), 40dB (NARROW)
 15kHz40dB (WIDE), 36dB (NARROW)

周波数特性.....20Hz~15kHz, ±0.5dB
 イメージ妨害比 (84MHz)95dB
 IF妨害比 (84MHz)110dB
 スプリアス妨害比 (84MHz)100dB
 AM抑圧比.....65dB
 サブキャリア抑圧比70dB
 出力レベルおよび出力インピーダンス
 FM 1kHz, 100%変調 固定出力0.6V, 1.7kΩ

〔AMチューナー部〕

受信周波数範囲522kHz~1611kHz
 感度10μV; 250μV/m
 SN比 (30%変調, 1mV入力)52dB
 高調波ひずみ率 (1,000kHz)0.3% (WIDE), 0.8% (NARROW)
 イメージ妨害比 (1,000kHz)40dB
 IF妨害比 (1,000kHz)60dB
 選択度 (IHF)30dB (WIDE), 50dB (NARROW)
 出力レベルおよびインピーダンス (400Hz, 30%変調) ...0.18V, 1.7kΩ

〔電源部・その他〕

電源電圧・電源周波数AC 100V, 50/60Hz
 定格消費電力 (電気用品取締法に基づく表示)15W
 寸法幅440×高さ64×奥行317 (mm)
 重量正味3.8kg
 梱包込み4.8kg
 メモリーバックアップ保証時間3日 (72時間)

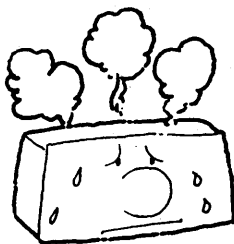
セットのお手入れ

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、シリコンクロスかやわらかい布でからぶきします。シンナー、ベンジンなどの使用は変色の原因になることがあります。



異常にお気づきの際は

煙がでている、変な匂いがするなどのときは、電源スイッチをすばやく OFF にして電源コードを抜いてください。そのうえで速かに購入店または最寄りのトリオサービスセンター、営業所へご連絡ください。



ステレオ音のエチケット

良い音、楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。

特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快よい生活環境を守りましょう。

接続のしかた

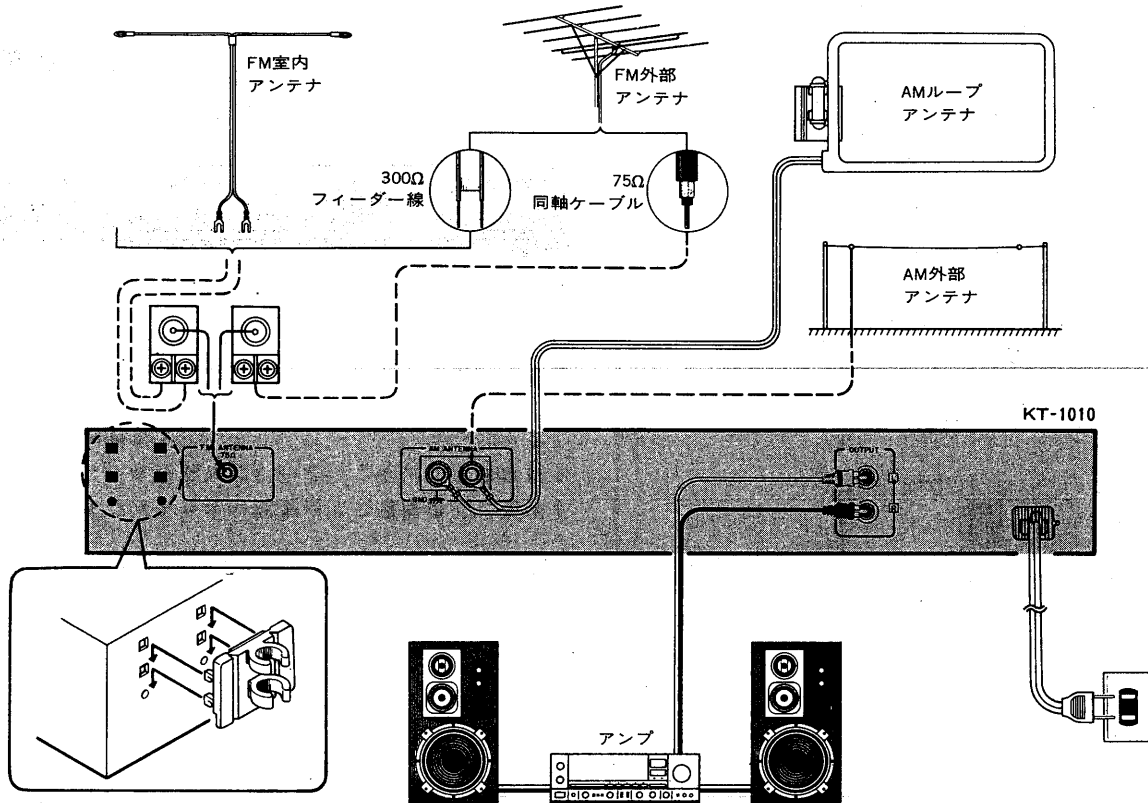
アンテナを取付けましょう

T型FMアンテナ : アンテナアダプターのネジターミナル部にT型アンテナのYラグ部を接続し、FMアンテナ(FM ANTENNA)端子にアダプターを差込みます。

T型アンテナはFM専用外部アンテナを設置するまでの間、一時的にご利用ください。

AMループアンテナ : ループアンテナのリード線のYラグ部をAMアンテナ(AM ANTENNA)端子に接続し、アンテナホルダーにループアンテナを押し込みます。また、ループアンテナをセット外に固定したいときは、ホルダーごとはずし、シールをはがして、ホルダーを壁などに固定してください。さらにホルダー中央の穴を通して、木ネジなどで、固定することもできます。

ループアンテナのリード線が不足するときは、リード線を追加して受信状態のもっとも良い場所に設置してください。



アンプに接続しましょう

本機の出出力(OUT PUT)端子とアンプの入力(TUNER)端子を、付属の両ピンコードで接続します。端子にはL(左)チャンネルとR(右)チャンネルがあります。必ず同じチャンネルにつないでください(上図参照)。

電源コードは壁のコンセントかアンプの非連動コンセントに接続しましょう

本機は、記憶したプリセット内容の保持のために、電源スイッチを切ってもマイクロコンピューター部にわずかな電流を供給しています。したがって電源コードは、壁面コンセントかアンプの非連動コンセントに接続してください。

なお、十分充電後は、電源コードを抜いても3日以上数日間はメモリーバックアップをしています。

AC電源の極性について

本機のAC電源コードの片側には、灰色線の極性表示が施されています。ご使用のペアアンプの電源コンセントに(●)マークが付いている場合には、灰色線マークと(●)マークを合わせることで、電源の極性が統一され、ハム防止に有利なばかりでなく音質向上の一助にもなりますのでお試しください。

なお、従来通り極性にとらわれず接続されても結構です。

外部アンテナについて

FM外部アンテナ

チューナーで一番大切なのは希望の電波を確実に十分キャッチすることです。そのためにはFM専用外部アンテナを必ずご使用ください。

電波が十分強くても、ビルの谷間や山に囲まれた地域では反射波で音が歪んだり、ステレオのセパレーションが悪くなります。このようなときはアンテナの指向性のするどい2素子位相差給電アンテナをご使用ください。

また、放送局から遠く電波が弱い地域では電界強度に応じて3素子、5素子、7素子のアンテナを選んでください。素子数が増せば利得が高くなり、指向性もするどくなります。

アンテナとチューナーの接続

アンテナ端子にFMアンテナを接続するには、75Ω同軸ケーブルか300Ωフィーダー線を使います。本機の性能をフルに発揮させるためには、75Ω同軸ケーブル(3C-2Vか5C-2V)をおすすめします。

75Ω同軸ケーブルを使うとき

1. 付属の75Ω/300Ωアンテナアダプターのフタをあけます(図2参照)。
2. 75Ω同軸ケーブルを、図3のように処理し、アダプターに取付けます。(図3参照)
3. 本機背面のFM 75Ωアンテナ端子に差込みます。

300Ωフィーダー線を使うとき

付属のアンテナアダプターのネジターミナル部に、外部アンテナからの300Ωフィーダー線を接続し、FM 75Ωアンテナ端子に差込みます(アダプターには300Ω↔75Ωの変換器が入っています)(4ページ参照)。

FM専用外部アンテナをたてる時

FM雑音の中で、悩みの多いものにイグニッションノイズ(自動車のエンジンよりでる雑音)があります。この雑音をさけるために、アンテナを道路からできるだけ離れた所にたててください。

送信アンテナからごく近い所でFM外部アンテナをたてますと、電波が強すぎて音がひずむことがあります。これは故障ではありません。アンテナを室内アンテナにかえるか、または、お近くのトリオ営業所にご相談ください。

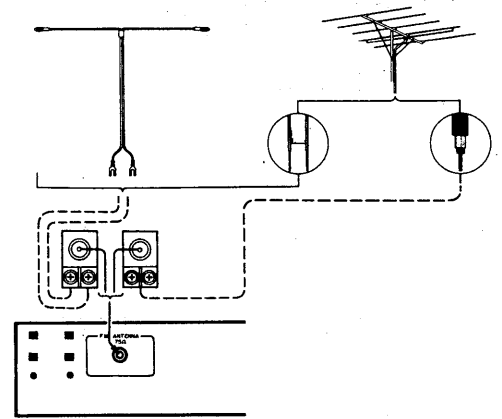
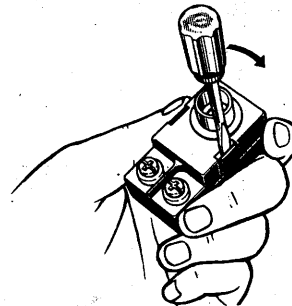


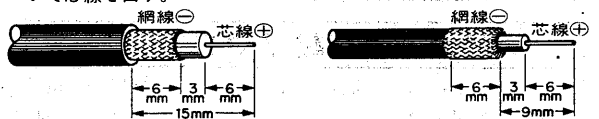
図1 FM専用外部アンテナの接続



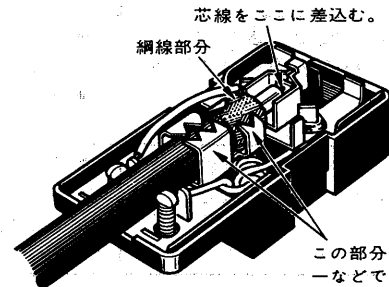
図のような要領で小型のドライバーなどであけられます。なお、内部にあるシールドケースははずさないでください。

図2 75Ω/300Ωアンテナアダプターのあけかた

1. 同軸ケーブルを図のように加工します。
5C-2Vの場合は外被をむいて芯線を出す。
3C-2Vの場合は外被をむいて網線を外被に折りかえす。



2. 加工した同軸ケーブルを、下図のように付属の75Ω/300Ωアンテナアダプターに取付けます。



この部分をプライヤーなどでつぶして固定する。

図3 付属のアダプターと同軸ケーブルの接続

AM外部アンテナ

AMリードアンテナ

鉄筋住宅の場合などでループアンテナを接続しても、受信状態が悪いときは、AMアンテナ端子にビニール被覆線を6~15m屋外にはってください。このとき必ずループアンテナも接続したままにしておきます(図4)。

アースの接続

アースは、アース(GND)端子につなぎます。アースはしなくとも放送受信はできますが、雑音除去と安全性などの点から接続されることをおすすめします。但し、ガス管には、絶対に接続しないでください。

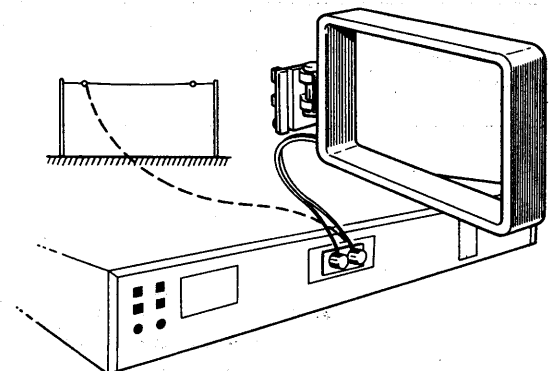
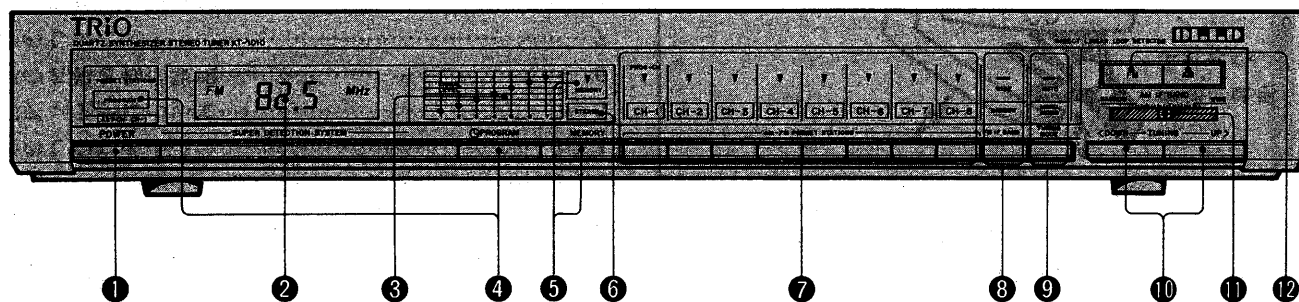


図4 AMリードアンテナの設置

各部の名称と動作説明



①電源スイッチ (POWER)

押すごとに電源が入ったり、切れたりします。

②周波数カウンター

AMまたはFMの周波数をデジタル表示します。選局時にはこの表示を見ながら正確な同調をとってください。

③シグナルインジケータ (SIGNAL LEVEL)

受信した放送局の電波の強さを示します。もっとも多く点灯するようにアンテナ調整してください。

④プログラムスイッチ、インジケータ (PROGRAM)

このスイッチを押しますとインジケータが点灯し、プログラム動作中であることを示します。本機とプログラムタイマーを接続し、タイマーにより一度目の電源が入りますと、電源が切れる以前に受信していた局を受信します。二度目の電源が入りますと、CH-1のプリセット局を受信することができます。

⑤メモリースwitch、インジケータ (PROGRAM)

押すと上部にあるメモリーインジケータが点灯し、ステーションスイッチへのメモリースタンバイ状態になります。

⑥ステレオインジケータ (STEREO)

モードスイッチを操作してオートインジケータが点灯しているとき、FMステレオ放送を受信すると点灯します。

⑦ステーションスイッチ、インジケータ (AM-FM PRESET STATIONS)

それぞれのスイッチにAM 1局、FM 1局を記憶させることができます。スイッチを押すと、上部のインジケータが点灯し、周波数カウンターにこのスイッチに記憶させた周波数が表示されます。CH-1は、プログラム受信時使用します。

⑧FM IFバンドツマミ (FM IF BAND)

WIDE : 通常は、この位置にしておきます。この位置では、歪の少ない良質の音を受信することができます。WIDEインジケータが点灯します。

NARROW : 隣接局の妨害がはげしく、放送がききとりにくいときはこの位置にしてください。選択度特性が良くなり、妨害の少ない受信状態となります (WIDEインジケータが消灯)

⑨モードスイッチ (TUNING MODE)

押すごとにオートインジケータ(AUTO)が点灯したり消えたりします。

AUTO点灯 : FMステレオ放送を受信するポジションです。また、AM、FMの両方でミュート機能が働き、オート選局状態となります。

AUTO消灯 : 強制的にモノラル受信するポジションです。またAM、FMの両方でミュート機能が働かずマニュアル選局状態となります。

⑩選局スイッチ (TUNING)

(UP>)側を押すと周波数が上昇し、(<DOWN)側を押すと周波数が下降します。バンドエッジでは、マニュアル選局のときはストップ、オート選局のときは反転してもどります。

⑪AM IFバンドツマミ (AM IF BAND)

AM放送を受信する際、復調帯域を広帯域 (WIDE)から狭帯域 (NARROW)まで連続的に可変できます。

WIDE : 混信のない地域での通常の位置です。低ひずみでより音質のよい放送を受信することができます。

NARROW : プリエンファシスされた放送局を受信する場合や、混信がある場合の位置です。選択度特性がよくなり、混信のない受信ができます。

⑫セレクタースイッチ

FM : FM放送を受信するときに押します。

AM : AM放送を受信するときに押します。

操作のしかた

オート選局のしかた

- ①アンプの入力セレクターがTUNERになっていることを確かめてください。
- ②電源スイッチを押します。
→周波数カウンターが点灯。※ラストチャンネルが表示。
- ③AM放送を聞くときはセレクタースイッチのAMを押します。
→周波数カウンターがAM表示。ラストチャンネルが表示。
FM放送を聞くときはセレクタースイッチのFMを押します。
→周波数カウンターがFM表示。ラストチャンネルが表示。
- ④モードスイッチを押します。
→オートインジケーターが点灯。
- ⑤選局スイッチを押します。
→周波数カウンターが自動的に走査し放送局のある周波数で停止。シグナルインジケーターが点灯し、放送が受信されます。
- ⑥音量と音質調整はアンプで行ってください。

FM・IFバンドについて

電波の弱いFM局を受信するときは、FM IF BAND スイッチをNARROWにしてください。

AM・IFバンドについて

現在、AM放送はプリエンファシスをかけている局とそうでない局がありますが、本機では、AM・IFバンドツマミの連続可変で次のように対応できます。

- プリエンファシス放送をきくとき……………NARROW側
 - 普通の放送をきくとき……………WIDE側
- にすると周波数特性がフラットになります。実際に放送を受信し、このツマミを調節して音質をかえることもできます。

※ラストチャンネル

メモリーバックアップがされていれば電源を切る寸前の周波数が記憶されます。この周波数をラストチャンネル周波数と呼び、再度電源を入れるとこの周波数が表示されます。

マニュアル選局のしかた

オート選局では選局できない電波の弱い局、または放送局の周波数がわかっている局を受信したいときは、マニュアル選局をしてください (AM, FM両方で可能です)。

- ①“オート選局のしかた”の①-③項を行います。
- ②モードスイッチでオートインジケーターを消灯させます。
→オートインジケーター(AUTO)が消えるとマニュアル選局となります。
- ③選局スイッチを押します。
→1回押すと周波数が1ステップ(FM:0.1MHz AM:9kHz)変わります。また押し続けると連続して周波数が変わります。

ご注意:

FM放送の場合は、マニュアル選局のままですとモノラルになってしまいます。ステレオ放送のときは選局後に再びモードスイッチを押してオートインジケーター(AUTO)を点灯させてください。

プリセットメモリーのしかた

- ①放送局を受信します。
- ②メモリースイッチを押します。
→メモリーインジケーターが点灯(約13秒)。
- ③メモリーインジケーターが点灯している間に任意のステーションスイッチを押します。
→メモリーインジケーターが消え、ステーションインジケーターが点灯し記憶完了。
ステーションスイッチにお好みの放送局の周波数をメモリーすれば、いつでも聞きたい局をステーションスイッチを押すだけで選局できます。

プログラム受信のしかた

プログラムタイマーと本機を接続して2つの局を受信することができます。これは2局を“るす録”するとき大変便利です。

1. 本機に電源が通電するように、プログラムタイマーを操作します。
2. 本機の電源を入れ受信状態にします。
3. プログラムスイッチをOFF状態にします(プログラムインジケーターが消灯していることを確認してください)。
4. 2番目に受信したい局の周波数をCH-1のステーションスイッチにプリセットしてください。
5. 最初に受信したい局をマニュアル操作またはプリセットチューニングで受信してください。
6. プログラムスイッチをON状態にしてください(プログラムインジケーターが点灯)。
7. 本機へ2度通電するようにプログラムタイマーをセットしてください。
8. 最初に本機へ通電されたときに、5で受信した局が受信されます。2度目に通電されたときは、CH-1にプリセットされた局が受信されます。

ご注意:

1. プログラム受信の操作をしないときは、プログラムインジケーターが消灯していることを確認してください。プログラムインジケーターが点灯していると、電源を入れるたびにCH-1に記憶されている局が受信されます。
2. プログラム受信をする場合は、本機に30分程度通電し、十分充電してからタイマーに接続してください。3日以上数日間は、メモリーバックアップしています。

故障と思われる症状ですが

調子が悪いと故障と考えがちですが、サービスに依頼する前に症状に合わせて一度チェックしてみてください。

症 状	原 因	処 置
一般的なこと		
音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ● アンテナをつないでいない ● アンプとの接続 ● 放送局を受信していない 	<ul style="list-style-type: none"> ● AM用はループアンテナ ● FM用は外部アンテナまたはT型アンテナ を必ず接続する <ul style="list-style-type: none"> ● 両ピンコードで必ずアンプと接続する ● 放送局の周波数に合せる
シグナルインジケータの点灯が不安定	アンテナの接続が不確実	断線、接触不良のチェック
スイッチを操作すると、一時音がとぎれる	スイッチの切替えによるショックノイズ防止のため一時的にミュートングをかけている	故障ではありません

FM受信時に起りやすいこと		
ザーッという連続音が放送とともに入る。モードスイッチをオートのポジションにすると大きくなる	アンテナに入ってくる電波が弱く入力不足となっている	FMアンテナの見直し、また放送局から遠距離にあるところではFM専用外部アンテナ(5~8素子)が必要です
バリバリ、ガリガリという雑音が入る	自動車などのイグニッションノイズ	アンテナを道路から離して設置し、接続コードは300Ωリボンフィーダー線よりも75Ω同軸ケーブルを使用する。
ステレオ放送のはずなのにステレオインジケータがつかずモノラルになっている	<ul style="list-style-type: none"> ● 電波が弱いためチューナー側で強制的にモノラルにしている ● モードスイッチのポジションがモノラルとなっている 	<ul style="list-style-type: none"> ● FM専用外部アンテナを屋外に設置し、電波を十分キャッチする ● オートのポジションにする

AM受信時に起りやすいこと		
ジーッという連続音が入る特に夜間大きい	電気器具(蛍光灯など)による雑音や空電という雑音がアンテナから入る	屋外にAMリードアンテナを設置し、アースを取れば減少しますが、完全にとり除くことはむずかしい
放送に合わせたときだけブーンというハム(同調ハム)が入る	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源コードの差し込み方向ででることがある ● 地区的にでることがある 	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源コードの差し込みをかえてみる ● 交流電源の使用時には特定の局にハムがでるのはやむをえません
チーッ、シーッという高い連続音が入り、大きくなる	<ul style="list-style-type: none"> ● テレビから出る雑音 ● AM放送局同志の干渉による9kHzのビート音 	<ul style="list-style-type: none"> ● テレビを消してみる(近所のテレビの影響を受けていることもある) ● AM放送方式の欠点で取り除けません

シンセサイザーチューナーで起りやすいこと		
ステーションスイッチを押しても受信しない	放送局の周波数をメモリーしていない	放送局の周波数を確認、確実にメモリーする
ステーションスイッチにメモリーしたのにメモリーが消えている	電源コードの接続が無いためバックアップが完全でない	電源コードは必ず壁面コンセントなど、常に切れない場所に接続する

■アフターサービスのお問合せは、購入店または最寄りの当社サービスセンター、営業所をご利用ください。
 その他商品に関するお問合せは、お客様相談室をご利用ください。 電話 (03) 486-5515

トリオ株式会社

本社 東京都渋谷区渋谷 2-17-5 シオノギ渋谷ビル 〒150 電話 (03) 486-5511